

Koriyama West Weekly Report

第 17 回例会 | No. 2836 | 2025 年 12 月 10 日 (水)

●会 長/鈴木 淳弥 ●幹 事/高橋 晋也 ●クラブ広報委員長/森尾 和衛
●会報・雑誌小委員長/濱尾 博文 ●会報・雑誌小委員会副委員長/石橋 理
●事務局/〒963-8001 郡山市大町 1-2-17 大ービル 1 階 ☎024-923-0847
●例会日/水曜日 12:30~13:30 ●例会場/記憶の森 郡山市山崎305-10

会員卓話～「大ゴッホ展について」関根英樹会員

開会点鐘 / 国家斉唱 / ロータリーソング「奉仕の理想」
四つのテスト唱和

<鈴木淳弥会長挨拶>

昨日、2ヶ月に1回の会長幹事会があり、その中でガバナー補佐より報告がありました。中央分区分全体で今年度増えた人数は5、6人程度とのことです。西クラブとしては、1名増えて1名減り、プラスマイナスゼロの41名という現状です。なんとか45名まで増やして全体発表をしたいと考えています。



また、ホームページを公開した件ですが、会員情報がまだ公開に至っておりません。皆さんの顔写真を撮りながら完成させたいのですが、掲載項目は以下の5点です。

1. 会社情報 2. 役職 3. 住所・電話番号 4. ホームページの URL 5. 顔写真

「写真を載せたくない」「情報を上げないでほしい」という方もいらっしゃると思いますので、事務局よりメールもしくは FAX で確認のご連絡をします。掲載の可否についてご回答をお願いします。

何を話そうかと考えたのですが、一昨日、大きな地震がありました。東日本大震災と、先日の青森県東方沖地震の比較についてお話しします。今回の最大震度は八戸などで震度6強でした。対して東日本大震災は宮城県北部で震度7でした。一番大きな違いはマグニチュードです。今回は7.5～7.6だったのに対し、東日本大震災はマグニチュード9.0でした。数字では1.5の差ですが、エネルギー量でいくと1000倍以上の差があるという大きな違いがあります。東日本大震災は死者・行方不明者が約2万2000名という大変な震災でした。ちなみに郡山は震度6弱で、全壊が2433軒、5万7000軒が住宅被害を受けました。

今回、私達にとって新しい言葉として「北海道・三陸沖 後発地震注意情報」というものがありました。これは2022年に制定されたものです。「後発地震」とは何かというと、いわゆる「余震」とは異なります。余震は同じ震源地での影響で起こる小～中規模のものです。後発地震は、一つ大きな地震が起きた影響で、別のエリアで同等もしくはそれ以上の巨大地震が起こる可能性がある場合に注意喚起されるものです。これには大きな違いがあるので覚えてください。今回の地震では「長周期地震動」が観測されました。揺れが大きくて長く、震度が低くても高いビルなどでは大きく揺れて被害になる現象です。

本日の卓話は、関根さんの「大ゴッホ展」です。こちらも震災に係ることなのでよろしくお願いいたします。

<出席報告>金田岩光 出席委員長

会員数/41名 出席者数/27名
欠席者数/14名 出席率/65.85%
前回出席率/68.29%

【他クラブ出席】

- ・11/29(木) 地区行事 高橋金一
- ・12/6(土) ガバナーエレクト国際協議会壮行会 滝田吉宏
- ・12/6(土) RLI 第8期パートII 土井將照
- ・12/8(月) 郡山北 RC 伊東孝弥



<ニコニコ BOX 報告> 丹生修一郎ニコニコ BOX 副委員長

高橋金一会員 ゴッホ展期待しています。／関根英樹会員

本日卓話させていただきます。ゴッホ展宣伝して下さい。地震に気を付けましょう。／満井紀勝会員 久しぶりのゴッホ関根さんの卓話楽しみです。／乾敦史会員 卓話楽しみにしています。／伊東孝弥会員 ゴッホこれはすごいですね。／鈴木淳弥会長 関根さん卓話楽しみにしています。／森尾和衛会員 とりたて白菜とキャベツ持ってきました。／阿部治江会員 関根さん卓話楽しみにしています。／今泉雄二会員 結婚記念日のお花ありがとうございます。／丹生修一郎会員 森尾さん白菜、キャベツありがとうございます。／石田弘会員／樽川啓会員／遠藤雄一会員／鈴木功一会員／金田岩光会員／鈴木茂会員／宮本孝会員／鳴原健太郎会員／蜂谷雅俊会員／佐藤克敏会員／滝田吉宏会員／安齋晃会員／柳沼克彦会員／土井將照会員

今週のニコニコ大賞 満井紀勝会員

ゴッホ展を楽しみにしている
思いが伝わってきました。



<会員卓話> 関根英樹会員

今日はここで「ゴッホ展」の宣伝をさせていただきます。よろしくお願いします。

これから細かい話をしますが、再来年の2月からゴッホ展は始まります。本当にとんでもないことなので、ぜひ多くの人に見ていただきたいという純粋な思いで皆さんにお伝えします。



「ゴッホが福島にやってくる」。

ファン・ゴッホの名作を集めた国内最大級のゴッホ展が、福島県立美術館で開催されます。世界中で大人気の画家の最高傑作を含む自筆の油彩約80点、デッサン約40点が2回にわたって来ます。福島でこの展覧会を見逃せば、一生の後悔とさえ言えます。

通常、こうした大規模な展覧会は大都市で開催されますが、今回は福島です。きっかけは、クレラー・ミュラー美術館が大規模な改修工事を行うことです。その設計を安藤忠雄さんが担当することになり、改修期間中にコレクションを日本で公開しようという話が持ち上がりました。

国内での誘致合戦がありました。以前、福島県立美術館で「若冲展」や「フェルメール展」を成功させた実績（県立医大の竹下理事長の尽力や、インターナショナル・プロモーターとの信頼関係）が評価されました。

特に、「震災からの復興」という物語性、そして世界的名画が来ることで「福島は放射線的に安全である」と世界に発信できるという意義を、美術館側や弁護士が理解してくれたことが大きいです。

物語は「神戸から福島へ」という形で繋がっています。当初は大阪市立美術館の予定でしたが、諸事情で神戸に変更になり、震災を経験した神戸と福島で開催することに大きな意味が生まれました。

クレラー・ミュラー美術館

- Kröller-Müller Museumは、オランダ・ヘルダーランド州エーデのデ・ホーヘ・フェルウェ国立公園内のオッテルロー村にある美術館である。
- 実業家のアントン・クレラー・ミュラーと、その夫人ヘレン・クレラー・ミュラーのコレクションを基に1938年に開設された。
- フィンセント・ファン・ゴッホに関するコレクションで知られ、その規模はアムステルダム・ゴッホ美術館と並び、2大ゴッホ美術館と称される^[2]。
- 屋外での展示もあり、緑に囲まれた広大な敷地に彫刻が散在する展示方法は、日本の彫刻の森美術館の参考になった^[3]。
- アムステルダムから行く場合には、列車でアベルドルンまたはエーデ・ワーゲニンゲン (Ede-Wageningen) まで行きバスに乗り換える^[1]。美術館の入館料の他に、国立公園の入場料が必要となる。
- フィンセント・ファン・ゴッホ『アルルの跳ね橋(ラングロワ橋)』(1888年)
- フィンセント・ファン・ゴッホ『夜のカフェテラス』(1888年)
- フィンセント・ファン・ゴッホ『種まく人』(1888年)
- フィンセント・ファン・ゴッホ『糸杉と星の見える道』(189

クレラー・ミュラー美術館は、貿易輸送会社の社長夫人ヘレン・クレラー・ミュラーが集めた美術コレクションを公開するため、1913年ハーグ市に私設美術館としてオープンした。

そのコレクションには270余点ものゴッホ作品が含まれており、これは個人コレクションとしては世界最大である。

1928年、コレクションはクレラー・ミュラー財団に引き渡され、35-37年にはオランダ国家の所有となる。38年には現在のオッテルロー近郊のホーヘ・フェルウェ国立公園内に、ヴァン・ド・ヴェルド設計による国立クレラー・ミュラー美術館が開館した。その後、アムステルダムに国立ファン・ゴッホ美術館が設けられ、94年に同館は民営化されたが、現在は国の大きな支援を受けている。

ゴッホが福島にやってくる！

フィンセント・ファン・ゴッホの珠玉の作品を集めた

国内最大級のゴッホ展が福島県立美術館で開催される！



自画像
クレラー・ミュラー美術館

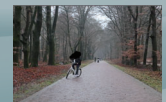
【講話概要】 世界中で大人気の画家フィンセント・ファン・ゴッホの最高傑作を含む自筆の油彩約80点、デッサン等約40点が2回にわたって福島で観賞できるという奇跡のような展覧会が今年度末から始まります。福島にいてこの展覧会を見逃せば一生の不覚とさえ言えます。世界中が注目する展覧会がなぜ福島で実現することになったか。その秘密を紹介します。

ゴッホとは

- **フィンセント・ヴィレム・ファン・ゴッホ**
- (オランダ語: Vincent Willem van Gogh, 1853年3月30日 - 1890年7月29日)。
- オランダのポスト印象派の画家。大胆な色彩と独特な筆致で知られ、「炎の画家」とも呼ばれた。
- ゴッホは、日本の浮世絵を好み、影響を受けた作品も多く残しています。また、病を患いながらも、その情熱を絵画に注ぎ、生涯で多数の作品を残した。
- ゴッホの精神病を抱えながら絵を書き続けた人生は、宗教学、社会学、医学のなど幅広い学問分野で研究が行われている。
- 主要作品の多くは1886年以降のフランス居住時代、特にアルル時代(1888年 - 1889年5月)とサン＝レミでの療養時代(1889年5月 - 1890年5月)に制作された。感情の率直な表現、大胆な色使いで知られ、フォーヴィスム(野獣派)やドイツ表現主義など、20世紀の美術にも大きな影響を及ぼした。
- なお、オランダ人名のファン(van)はミドルネームではなく姓の一部であるため省略しない^[3]。

日本におけるゴッホ展

- 戦前の日本で「ゴッホ展」は開かれていない。本格的な展覧会は、足かけ8年にわたる準備期間を経て実現した1958年(昭和33年)の「大ファン・ゴッホ展」が最初とみられる。「アルルの跳ね橋」「星の夜のカフェ」「郵便配達夫ルーラン像」「糸杉と星の道」「アルルの女」といった有名作品を含めた油彩56点、素描70点の計126点が出品された大規模なもので、保険金額は15億円、入場者は東京と京都で2カ月間で90万人を超えたというから、当時としては、いや現在と比較しても破格的な展覧会というほかない。
- この時の主催は読売新聞社。まだ国立ファン・ゴッホ美術館が設立されてなかった当時、「ゴッホの作品は、ごく少数を除いて、ほとんどがゴッホ家の所有品か、国立クレラー・ミュラー美術館のコレクション」だった。





6 展示内容

(1) 第1回展覧会

クレラー・ミュラー美術館を代表する名画「夜のカフェテラス」をメインとして、ファン・ゴッホがブラバント地方からアルルに移り住むまでの作品を展示します。

【展示作品】約70点(ゴッホの作品58点を予定)

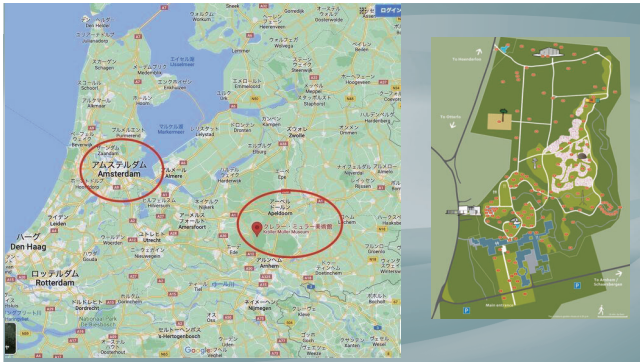
- ・自画像／1887／油彩
- ・夜のカフェテラス／1888／油彩 など

(2) 第2回展覧会

オランダの国宝とも称され、かつて日本の美術教科書にもファン・ゴッホの代表作品として掲載されていた名画「アルルの跳ね橋」をメインとして、アルルからサン・レミ、オーヴェールに至るまでの作品を展示します。

【展示作品】約70点(ゴッホの作品48点を予定)

- ・アルルの跳ね橋(ラングロウ橋)／1888／油彩
- ・夜のプロバンスの田舎道／1890／油彩 など



7 展覧会に関連する主な取組

(1) 子どもたちの鑑賞機会の充実(観覧料金の無料化等)

(2) 多彩な広報、関連イベントの展開

(3) 地域、観光等との連携

- ・美術館周辺地域の賑わい創出
- ・アートツーリズム
- ・デスティネーションキャンペーンとの連携

大ファン・ゴッホ展概要

- ◆ 1 開催意義
- ◆ (1) 県誕生150周年、東日本大震災及び原発事故から15年の節目となる2026年と、その翌年の2027年に、福島県立美術館において、ファン・ゴッホ作品のコレクションで世界的に有名なクレラー・ミュラー美術館(オランダ)所蔵のファン・ゴッホ作品を中心とする展覧会を2回にわたり開催します。
- ◆ (2) 本展覧会は、ファン・ゴッホの代表作品に直接触れることにより、県民に感動や元気を届け、前に進む原動力につなげるとともに、次世代を担う子どもたちの豊かな心を育みます。
- ◆ (3) また、「復興の地ふくしま」の実現に向けて挑戦を続ける本県の姿と魅力を国内外に広く発信し、交流人口の拡大につなげます。
- ◆ (4) さらに、福島県立医科大学の発案により、世界的な名画を用いた臨床応用として、「アートセラピー」のさらなる発展を目指します。



 <p>第1回 「夜のカフェテラス展」</p> <p>◆ 会期 2026年2月21日(土)～5月10日(日)</p> <p>◆ 展示予定作品 「夜のカフェテラス」ほか約60～70点</p>	 <p>第2回 「アルルの跳ね橋展」(仮)</p> <p>◆ 会期 2027年6月19日(土)～9月26日(日)</p> <p>◆ 展示予定作品 「アルルの跳ね橋」ほか約60～70点</p>
---	--

「大ゴッホ展」を、福島県誕生150周年、東日本大震災および原発事故から15年となる節目である2026年2月から、福島県立美術館で開催します。

オランダのクレラー・ミュラー美術館のコレクションから、印象派を代表する画家「フィンセント・ファン・ゴッホ(1853～1890)」の作品を中心に紹介する展覧会です。

第1回の展覧会では、人気の高い《夜のカフェテラス》、2027年から予定されている展覧会では約70年ぶりの来日となる《アルルの跳ね橋》が展示されます。いずれもファン・ゴッホを代表する傑作で、国外に出ることは稀な作品です。

第1回の展覧会では、初期のオランダ時代から、パリを経て、南仏アルルに至る、画家としてのファン・ゴッホの前半生をたどります。2027年に予定されている第2回の展覧会ではアルルからサン・レミ、そしてオーヴェール＝シュール＝オーワーズに至る約2年あまりの晩年間の創作に焦点を当てます。困難な人生を歩みながらも、決して創作をあきらめなかったファン・ゴッホの人生と才能に迫ります。

ファン・ゴッホの代表作品に直接触れることにより、福島県民に感動や元気を届け、前に進む原動力につなげるだけでなく、次世代を担う子どもたちの豊かな心を育むことを目指します。

主催 大ゴッホ実行委員会

福島県/福島県教育委員会/福島県立美術館/公立大学法人福島県立医科大学/福島市

福島民報社/NHK福島放送局/福島テレビ/福島中央テレビ/福島放送/テレビユー福島/ラジオ福島/ふくしまFM

監修 クレラー・ミュラー美術館 ベン・テンペル館長

- 2 会期
第1回展覧会 2026年(令和8年)2月21日(土)～5月10日(日)
第2回展覧会 2027年(令和9年)6月19日(土)～9月26日(日)

- 3 会場
福島県立美術館(福島市森合字西養山1番地)

- 4 主催
大ファン・ゴッホ展(仮題)実行委員会
【構成機関】

福島県、福島県教育委員会、福島県立美術館、公立大学法人福島県立医科大学、福島市、福島民報社、NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM

- 5 監修
クレラー・ミュラー美術館 ベン・テンペル館長



開催概要

大ゴッホ展
-Grand Van Gogh Exhibition-
第1回展覧会
夜のカフェテラス展
Terrace of a Cafe at Night
2026.2.21(土)～5.10(日)
会場 福島県立美術館

2005年以降の来日となる「夜のカフェテラス」をメインに、ファン・ゴッホがブラバント地方からアルルに移り住むまでの作品を展示し、単のデオや友人に宛てた手紙の内容から、他のアーティストたちとの交流で得た……芸術的な影響や作品制作におけるこだわりなどについて考察する……

◆ 展示作品
約70点(ゴッホの作品58点を予定、他にモネ、ルノアールなどの作品を予定)

◆ 主な展示作品
・黄色い髪をした婦人のある静物／1881／油彩
・自画像／1887／油彩
・レストランの夜／1887／油彩
・夜のアルル／1888／油彩



- <ランチ>
- ・チキンの味噌焼き
 - ・フライ
 - ・シューマイ

